

としょかん映写会

◇2月・3月は、東日本大震災をふりかえる2作品を上映いたします◇

「ラジオ」「遺体 明日への十日間」は、実際の出来事をもとにつくられた、震災後の復興に強く立ち向かう人々の物語です。ぜひ、ご覧ください。

上映場所：三股町立図書館多目的ルーム <入場無料です>

【ラジオ】 出演／刈谷友衣子 安藤サクラ 吉田栄作 西田尚美 リリーフランキー

日時：2月16日（金）・3月16日（金）10：10～11：40

東日本大震災の被災地・宮城県女川町。ここに震災の1か月後に地元の人たちの手で作られた臨時災害放送局「女川さいがいFM」がある。

このドラマは地域に必要な情報を届けようと集まった、高校生など若いスタッフと地元の皆さんをモデルにしている。原作となったのは「女川さいがいFM」にアナウンサーとして参加した女子高生“某ちゃん。”のブログ。被災地女川で「ブログ」と「ラジオ」を経験し、自分自身を取り戻していく女子高生と仲間たちの物語は、震災を描くドラマではない。「心」の復興を描くドラマである。



【遺体 明日への十日間】 出演／西田敏行 佐藤浩市 筒井道隆 柳葉敏郎

日時：2月16日（金）・3月16日（金）13：30～15：10



東日本大震災で甚大な被害に見舞われた岩手県釜石市。津波による多くの犠牲者の遺体の身元確認作業にあたったのは、残された地元の医師や歯科医師だった。混乱する遺体安置所を訪れた相葉常夫（西田敏行）は、定年前は葬儀社に勤めていたため、遺体の扱いや遺族への接し方を理解していた。彼は動揺している人たちを統率すべく、ボランティアとして働くことになる。人の尊厳を守りながら一人でも多くの遺体を家族の元に帰してあげたい・・・彼の言動に、それまでは遺体を“死体”として眺めることしかできなかった市の職員や消防団員たちも率先して動くようになる。